

九月も最終週に入り、3年も折り返し点を過ぎました。夏休みからここまでの間に、つぎつぎと進路を決める人が現われています。しかし、周囲を見渡すと、まだ3分の2弱の人がこれからです。中間考査1週間前の機会に皆さんに伝えておきたいことを書いておきます。

一、進路の決まった人へ

■「手続き」忘れていませんか？

AO入試等で「内定」をもらっている人は正式な出願をしなければいけません。その際には調査書が必要ですので、担任の先生に発行してもらいましょう（「調査書発行願（水色用紙）」を担任に提出する）。その際に期日に注意すること。「AO入試受験届」（白い用紙）の提出のまだの人も忘れず記入提出してください。

■報告とお礼を

進路が決めることができたのはあなた自身の努力の成果ですが、志望動機の添削や面接練習、講習や個別指導などでいろいろな人の助けを受けていると思います。お世話になった人への報告とお礼を忘れないようにしましょう！！

■少しでも、自分を高めよう

進路の決まった皆さんこそ「受験に縛られずに伸び伸びと勉強できる」のです。いろいろな学問分野の授業が受けられるのは今が最後ですよ。授業を通じて、知識やものの見方をさらに学んで、少しでも教養を広げ自分を高めてください。

■卒業できなければ全てが台無しに・・・

以前にも書きましたが、折角進路が決まっても、卒業できなければ全てが白紙に戻ります。8月の追認考査で多くの人が不認定科目を取り消すことができました。良く頑張ったと思います。けれども、1学期に欠点科目を多数保有し、卒業が危ぶまれる人が少

なからず居ますので、心して中間考査にのぞんでください。

■「進路実現は団体戦」だから・・・

「進路実現は団体戦」と言われます。「一人ひとりの目標は異なるが、みんなが向かっている」という雰囲気大切だという意味です。既に進路が決まった皆さんは、1学期の比較的落ち着いた雰囲気の中で進路を決めることができました。だから、これからの人も同じような雰囲気できちんと勉強できるようにしてあげてください。授業の雰囲気を壊さないように気をつけてください。遅刻したり、欠席したり、などのいい加減な学校生活も雰囲気を壊します。遊びの話や卒業旅行の話で盛り上がることも

あるでしょうが、周囲にまだ頑張っている仲間が居ることを気遣いましょう。



■指定校・AO・公募制推薦で大学短大の合格が決まっている人に。

すべての調査書は1学期末の成績で発行していますが、3月になってから、卒業時の調査書を求める学校もあります。先方が新しい調査書を見たときに、あなた自身への信用と学校への信頼が崩れないように、成績を保つ努力をしてください。

（*3学期以降の調査書は2学期末までの状況です）

二、これから受験する人へ

■入試は落ちる人のほうが多い。落胆するな。

既に大学のAO入試を不合格になってしまった人がいると思います。厳しい事を言うようですが「準備不足」だったのではないかと思います。まず、模試などの結果を活用し、自分の現状を分析し素直に受け入れましょう。そこから新たなスタートです。落胆している暇はありません。また、皆さんの多くは「公募で決めたい」と思っているでしょう。けれども、今年の

本校3年生の公募制推薦での延べ受験者245人のうち、合格者は延べ44人、合格率は18%でした。なぜ合格率がこの程度なのは次のような理由が考えられます。まず、時期が早いので準備不足の状態を受験した人が多かったこと。次に、公募制推薦入試は2科目や1科目で受験できるので、合格ラインの得点率が高くなること。さらに、受験生はみんな同じ事を考えるので志願者が増え、競争倍率が上がったこと。公募推薦入試はお得とはいき切れないのです。

■今が頑張りどころ、ガマンもしよう。

春のスタサポによると、一日の家庭学習時間が30分未満の者の大阪府の平均が28%であるのに対して、みどり8期生3年生は67%！いかに勉強して来なかったかが分ります。今更こんな数字を持ち出して皆さんを責めようとしているのではありません。周囲を知って欲しいのです。皆さんの受験勉強は、この積算勉強時間数の差を埋める戦いでもあるのです。早道や抜け道はありません。基礎に自信がないのなら愚直に基礎固めをしましょう。英語なら、単語（シス単など）も文法（ネクステなど）もどちらもやりましょう。他にもやりたい事もあるでしょうが、今の時期はすっぱり諦めて、勉強に振り向けましょう。明日の大きな喜びのために、今日の小さな楽しみは我慢するのです。長くても半年ほどのことですよ。

■授業は大切にしよう！ 内職は身につかない。

受験科目以外の授業中に内職をする人が見受けられるようになりました。「入試が近づく一方で思うように勉強が進んでいない…」という焦りの気持ちは分ります。しかし、合理的に考えれば「内職」は中途半端なものになり得策とは言えません。授業は担当者のペースで進み、ノートやプリントも記入しなければいけないので、内職は意外と中断させられ、思うように集中できません。また、授業に集中していないので理解ができておらず、テスト勉強に余計な時間がかか



ります。審査中であろうと受験勉強は継続した方が良いに決まっています。平素から授業に集中していれば、審査期間中であっても受験勉強と両立できます。

■一般入試を視野に入れ、受験科目を絞るな！

「受験科目は少ない方が勉強の負担が少ないし得意科目だけで勝負できる」と考えがちです。しかし、以前にも書いたとおり、リスクも大きい事を知ってください。また、公募制推薦で合格を勝ち取れなかった場合は、3科目が課せられる一般入試に挑戦することになります。公募制の合格率を考えるとあくまでも通過点ととらえ、一般入試をめざして3科目の勉強をしましょう。いま、受験科目数を減らそうと思っている人はもう一度考え直して欲しいのです。

■決して止まらず、最後まで粘ろう！

運動部の人が毎日ボールを触るように、受験勉強も毎日パターンをきめてルーティーンワークのように続けてください。また、入試後の合格発表までの期間も次の入試に向けて勉強の手を止めない事が肝要です。このようにして勉強に打ち込んでいけば、年明けにはきっと手応えをつかめるはずですよ。納得できる進路実現ができるよう最後まで頑張ってください。

■受験だからと言っても・・・

ただし、受験勉強があるからと言う理由で、授業をいい加減に受けたり、自宅で勉強すると言って遅刻や欠席をしたりしているようでは本末転倒です。学校に通い「朝～昼型」の生活をするのがあなたを勝利に導きます。皆さんの先輩達で、本当に成功した人はきちんと登校し規則正しい生活を送っていた人がほとんどです。学校に通い授業をきちんと受ける程度の余裕がないと受験は乗り切れないものだとっておきます。

